

平成 25 年度第 2 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 25 年 9 月 26 日（木）10 時 00 分～12 時 13 分
場 所 宇都宮大学本部第一会議室
出 席 者 進村，板橋，角，関根，増山，森，築，石田，井本，茅野，加藤，田巻，藤井，
池田，杉田の各委員
伊藤監事，吉田監事，塚本副学長，佐々木学長特別補佐

議事に先立ち，平成 25 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

[議 題]

1. 役員の給与について（案）

資料 1

学長から，資料 1 に基づき，役員の給与について（案）の提案理由及び内容等について説明があり，審議の結果，平成 25 年 10 月 1 日付けで適用することとし，原案のとおり承認した。

[報告事項]

1. 平成 24 年度期末監事監査実施結果について

資料 2

学長から，資料 2 に基づき，平成 24 年度期末監事監査実施結果について報告があり，伊藤監事及び吉田監事からコメントがあった。

（主な意見等）

- ・実施結果については，より具体的に指摘した方が良いのではないかと感じられる。経営協議会の指摘もあるが，その対応はどのようにされるのか。9 月 24 日付けの日経新聞報道によれば，文部科学省で 2015 年度末までに職員 6 万人のうち 1 万人を年俸制に変えていく動きがあるようである。そのためには，今から対策をとっていく必要があるのではないかと。また，9 月 12 日付けの同新聞報道によれば，九州工業大学では，国立大学初となる年俸制を導入し，業績評価等についても新しい手法を取り入れるなど競争原理に基づいた取組を進めているようである。宇都宮大学においても改革を進め，評価に耐えられるような対策も必要と考えるが，どう考えているのか。

（→経営協議会においては，様々な意見をいただいて改善に努めたいと考えている。更に見えるような形で対応していきたい。年俸制については，退職金との関係等とともに整理しなければならないと考えている。業績評価の問題等を含めて検討を進めたい。）

- ・年俸制の導入については，外部との競争もあるので早くから検討を始め，スムーズに進められるような体制づくりが必要ではないかと。

（→今後，鋭意検討していきたい。）

2. 平成 26 年度宇都宮大学概算要求（運営費交付金等）の概要について

資料 3-1, 3-2

財務課長から，資料 3-1 に基づき，文部科学省から財務省へ提出された「平成 26 年度宇都宮大学概算要求（運営費交付金等）の概要」及び資料 3-2 に基づき，「文部科学省高等教育局主要事項」について報告があった。

関連して，学長から，外部資金の獲得には全力を挙げて取り組みたい旨の説明があった。

3. ミッション再定義について

資料 4-1～4-4

石田理事から，資料 4-1（学際分野），4-2（教員養成分野），4-3（工学分野）及び 4-4（農学分野）に基づき，文部科学省へ提出したミッション再定義資料について報告があった。

4. 平成 25 年度地（知）の拠点整備事業の採択について 資料 5
石田理事から、資料 5 に基づき、平成 25 年度地（知）の拠点整備事業に本学から申請した「とちぎ高齢者共生社会を支える異世代 Chain アゴラの人材育成（仮称）」が採択された旨の報告があった。

5. 平成 25 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択について 資料 6
藤井男女共同参画推進室長から、資料 6 に基づき、平成 25 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」が採択されたこと及び今後の取組等について報告があった。

6. オープンキャンパス 2013 開催結果について 資料 7
石田理事から、資料 7 に基づき、7 月 21 日（日）に開催したオープンキャンパス 2013 開催結果について報告があった。

7. 2013 年度版環境報告書について 資料 8
施設環境審議役から、資料 8 に基づき、2013 年度版環境報告書について報告があった。

8. その他

チラシ

学長から、チラシに基づき、とちぎ日独協会と本学で共催する「ドイツ連邦共和国駐日大使：シュタンツェル氏の講演会」について報告があった。

資料

石田理事から、資料に基づき、8 月 21 日（水）に実施された文部科学省国立大学法人評価委員会ヒアリング（平成 24 事業年度に係る業務の実績に関する報告書に基づくヒアリング）の概要及び「平成 24 年度業務における重点的取組」について報告があった。

参考資料

学長から、参考資料に基づき、本学関連の新聞掲載記事について紹介があった。

[意見交換]

1. 宇都宮大学の教育研究活動等への取組について 資料 9～13, 冊子
茅野理事から、宇都宮大学における教育研究活動等への取組を紹介させていただき、意見等を賜りたい旨の説明があり、①基盤教育センター長、②国際学部長、③教育学部長、④工学研究科長、⑤農学部長の順にそれぞれ報告があった。

さらに同理事から、冊子に基づき、本学の英語教育改革及びグローバル人材育成教育プログラム等の紹介があった。

(主な意見等)

[国際学部関連]

・国際学部の特徴の一つに“Small is Beautiful”と示されているが、国際学部が設置されて 19 年ということもあり“Young is Powerful”ということも言えるのではないか。他の大学では、歴史の積み重ねがあり、これまでの伝統がブレーキとなるケースもある。そういう意味では、宇都宮大学国際学部は、時代に即した発展的な展開をみせることができるのではないかと、頑張っていたいただきたい。

[農学部関連]

- ・栃木県は県土の6割が平地であり、県の財産とも言える。6割の農地をもっと若い力で開発し、国内のみならず、アジアを始めとして世界へ打って出るような展開をして、農業を盛んにしていくべきである。栃木県経済同友会としてもそのような取組を共に考え、新しい人材を輩出して、できるだけ栃木県の力を発揮していこうではないかとの意見が強い。何と云っても宇都宮大学農学部がリーダーシップを取っていただくことが大事であると考え。頑張ってもらいたい。

(→学生が、農業経営者の生の声を聞いてそれらの経験を基に、JA や栃木県庁、産業界等に就職し、地域の営農者への働きかけをするような人材の育成を意識した教育を展開していくよう努めて参りたい。)

[基盤教育センター関連]

- ・専門教育と人材教育、地域化、グローバル化と幅広く目配りして教育の展開をされていることに感心した。今般、国際バカロレアが注目されているが、基礎教育において良いアクティブラーニングをしており、うまく適合するのではないかと。実践の場として附属学校を有しているの、そのような人材を育成するような検討もされたら良いのではないかと。

[全般]

- ・ITによる無料の公開オンライン教育 (Massive Open Online Courses) について、幾つかプラットフォームがでている。オプティクスのようなすばらしい分野を持っているので、できればそれらを利用して、対外的に本学の授業を発信すれば、評価も高まるのではないかと。
- ・非常に積極的な取組をされていると感じた。大学の大きな役割として、社会の課題の解決を提供しそれに必要な学問を教えることがあるが、それらを意識された中での教育が色濃く出てきていると感じた。更にシナジー効果を発揮して横断的に展開されたら良い。
- ・若者のものづくり離れが言われて久しいが、若年からの教育も必要であると考え。市民や若者を組み込んで一緒になって進める取り組みができれば良いのではないかと。ラーニングコモンズから感じたが、ヒューチャーセンターやファブラボ (Fabrication Laboratory) などを参考にして、ものづくりセンターとラーニングコモンズを一緒にしたようなイメージで機能の整備を検討してみてもどうか。

以 上